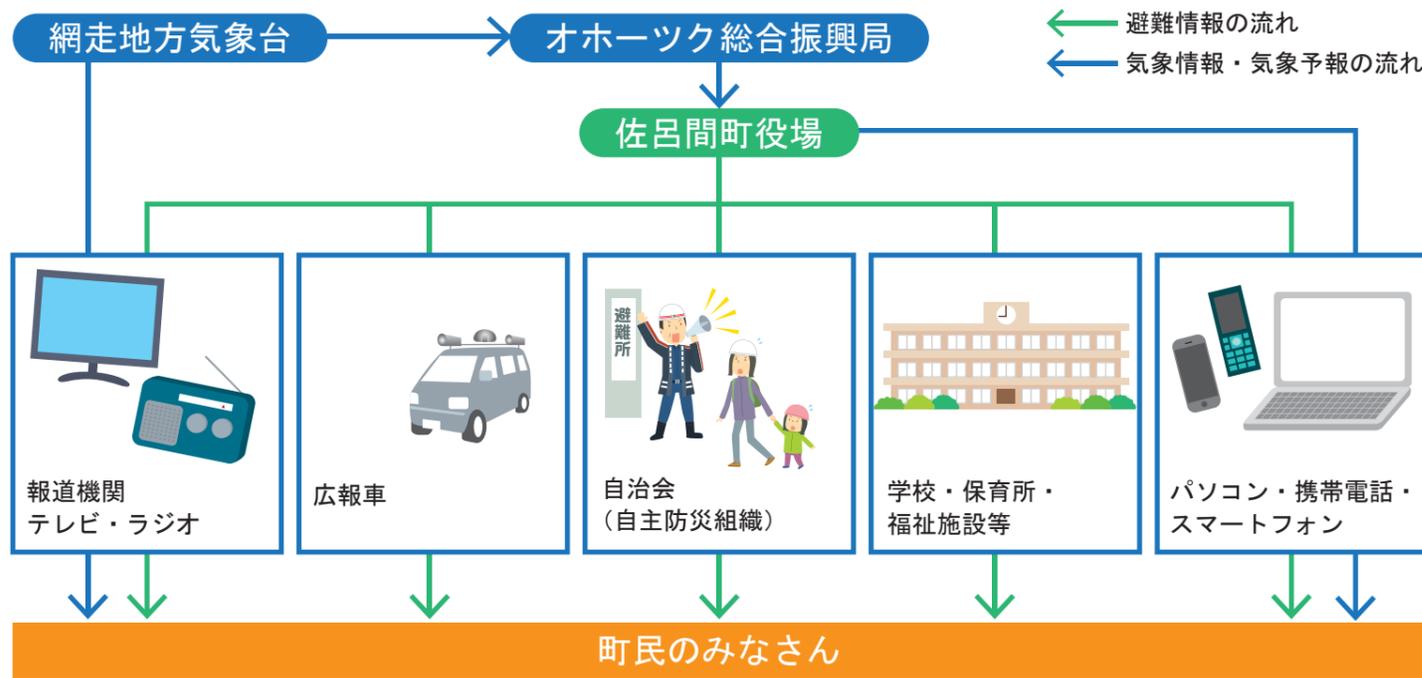


避難情報の流れ

避難情報や気象等に関する情報は、町民のみなさんに伝達されます。最新の情報に注意し、速やかに行動しましょう。



取るべき行動

避難情報を入手したら、速やかに行動しましょう。

危険度	避難情報	発令時の状況	町民のみなさんが取るべき行動
小	避難準備・高齢者等避難開始	人的被害の発生する可能性が高まった状況	<ul style="list-style-type: none"> 避難に時間を要する要配慮者の方(高齢の方等)やその支援者の方は避難してください。 特に、突発性が高く予測が難しい土砂災害の危険区域や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いでは、指定緊急避難場所または指定避難所へ避難してください。
	避難勧告	人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定緊急避難場所または指定避難所へ速やかに避難してください。 避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと判断する場合には、「近くの安全な場所」※1への避難や「屋内安全確保」※2を行ってください。
大	避難指示(緊急)	人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	<ul style="list-style-type: none"> 極めて危険な状況です。避難していない人は、指定緊急避難場所または指定避難所へ緊急に避難してください。 避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと判断する場合には、「近くの安全な場所」※1への避難や「屋内安全確保」※2を行ってください。

※1 近くの安全な場所：指定緊急避難場所または指定避難所ではないが、近くのより安全な場所・建物等
 ※2 屋内安全確保：その時点に居る建物の中で、より安全な部屋等への移動
 注) 町からの避難勧告等の発令が間に合わないこともあります。身の危険を感じたら迷わず避難してください。特に、津波は強い揺れまたは長時間ゆっくりとした揺れを感じた場合、気象庁の津波警報等の発表や町からの避難指示(緊急)の発令を待たずに、自らの判断で直ちに避難してください。

停電の備え

平成30年9月6日の北海道胆振東部地震では、道内各地で長時間にわたり停電となりました。停電は日常生活に様々な支障をきたします。日頃から備えましょう。

カセットコンロや発電機を準備

IH調理器や暖房設備は使用できません。カセットコンロやポータブルストーブ、発電機などを準備しましょう。(特にオール電化の家庭は注意しましょう。)

水の確保

断水し、トイレも流せなくなります。飲料水の準備やお風呂に水をためるなど、水を確保しましょう。

モバイルバッテリーの準備

携帯電話やスマートフォンは、家族との連絡、各種情報の入手に有効です。日頃からの充電を心がけ、乾電池式のモバイルバッテリーやラジオも準備しましょう。

停電復旧時の火災に注意

停電復旧時に電気が通ると火災の恐れがあります。停電時はブレーカーの電源を落とし、復旧後に電源を入れるようにしましょう。

ガソリンの給油

車が使えると、暖をとったり、テレビ・ラジオの視聴やシガーソケットからの充電が可能です。日頃から小まめにガソリンを給油しておきましょう。

平成18年竜巻被害(佐呂間町)

佐呂間町では平成18年の竜巻により甚大な被害が発生しました!

竜巻

竜巻とは

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻です。
- ろうと状や柱状の雲を伴っています。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。
- 移動スピードが非常に速い場合(例：時速約90km)があります。

発達した積乱雲の近づく兆しがあったら

安全確保に時間を要する場合、早めの避難開始を心がけてください。

- 人が集まる屋外行事
- テントの使用や子供、高齢の方を含む屋外活動
- 高所、クレーン等での作業

[発達した積乱雲の近づく兆しとは]

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

『竜巻』が間近に迫ったら

竜巻が間近に迫ったら、すぐに身を守る行動をとりましょう。

屋内では・・・

- 窓の少ない部屋に移動する。
- 窓やカーテンを閉める。
- 窓から離れる。
- 丈夫なテーブルの下に入るなど身を小さくして頭を守る。

ガラス窓の下や周囲は大変危険!

屋外では・・・

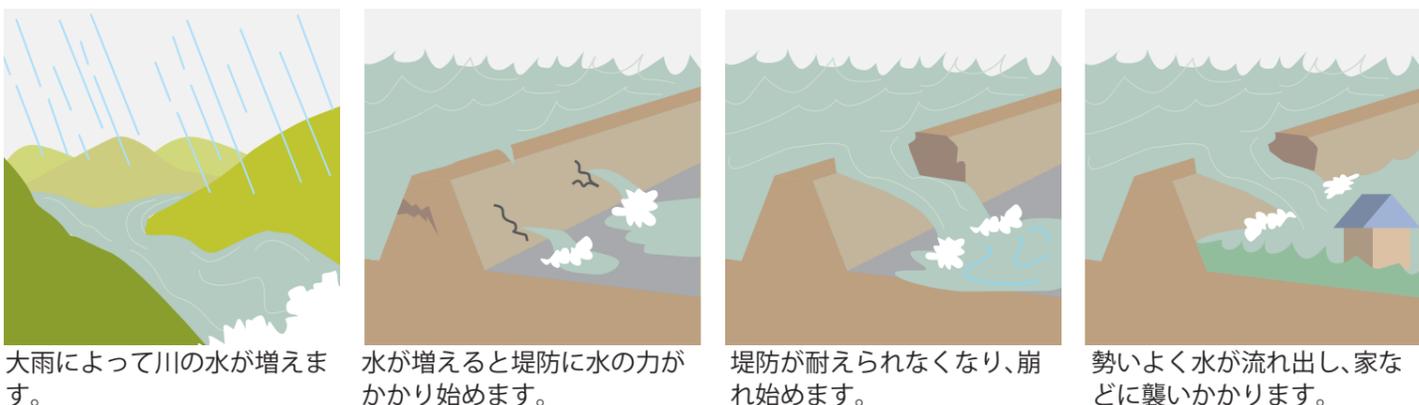
- 丈夫な建造物の陰に入って身を小さくする。
- 物置や車庫、プレハブの中は危険です。
- シャッターを閉める。

電柱や太い樹木も倒壊する恐れがあり危険!

基本知識

洪水発生のおそれ

洪水は、大雨による川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。



大雨によって川の水が増えます。水が増えると堤防に水の力がかかり始めます。堤防が耐えられなくなり、崩れ始めます。勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

雨の強さと予測される被害

雨の降り方でだいたいの雨量を知ることができます。1時間雨量と屋外の状況は以下のとおりです。

[やや強い雨]
10～20mm 未満
一面に水たまりができます。この程度の雨でも長く続く場合は注意が必要です。



[強い雨]
20～30mm 未満
傘をさしていても濡れます。側溝や小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。



[激しい雨]
30～50mm 未満
道路が川のようになり、がけ崩れが起きやすくなります。下水管から水があふれます。



[非常に激しい雨]
50～80mm 未満
雨が滝のように降ります。地下室に雨が流れ込む場合があります。土石流が起こりやすくなります。



[猛烈な雨]
80mm 以上
水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなります。大規模な災害のおそれが高く、厳重な警戒が必要です。



避難するときの注意点

自分の命を守るため、適切に行動しましょう。

水位の急激な変化に注意しましょう。

短時間で氾濫します。

水路やマンホールに注意しましょう。

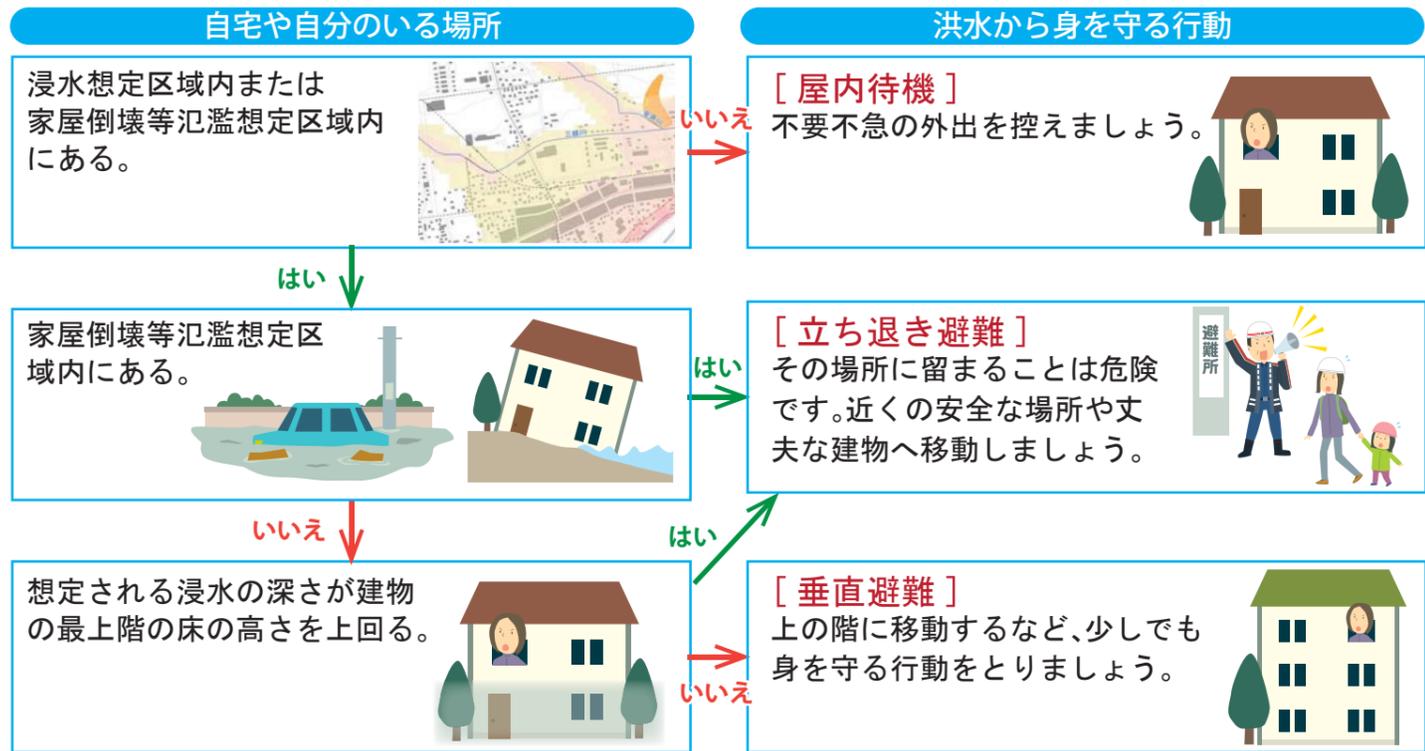
長靴は歩きにくいので注意しましょう。

屋内の安全な場所へ移動しましょう。

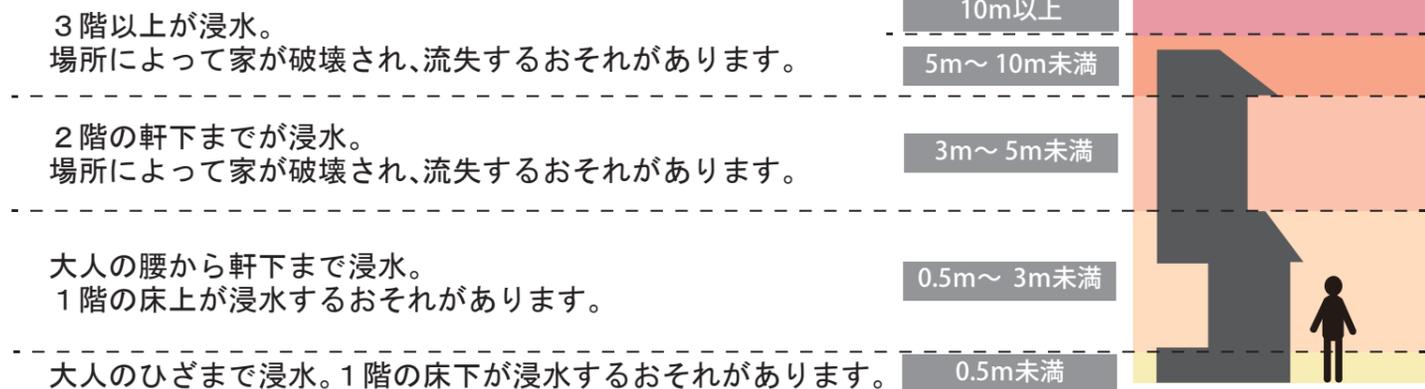
浸水前の早めの避難が重要です。

洪水から身を守る行動

自宅や自分のいる場所に応じて、洪水から身を守る行動をとりましょう。
※浸水想定区域はP.16～23を参照してください。



浸水と家屋との関係



水位に関する情報

河川には近づかないでください。自宅でも水位に関する情報を確認できます。(P.1 参照)

氾濫の発生	川から水があふれています。	無理に避難せず、自宅等の上の階に避難し救助を待ちましょう。
氾濫危険水位	川が氾濫する恐れがあります。	避難を止めましょう。
避難判断水位	避難判断水位を超えています。	避難を始めましょう。
氾濫注意水位	普段よりかなり増水しています。	避難の準備をしましょう。(要配慮者の方は避難を始めましょう)
水防団待機水位	川の水位が上昇する恐れがあります。	テレビやラジオ、インターネットなどの情報に注意しましょう。

基本知識

土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの命や住宅などの財産を奪う恐ろしい災害です。土砂災害の種類と前ぶれ現象は以下のとおりです。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響で急激に斜面が崩れ落ちることを「がけ崩れ」といいます。がけ崩れは、突然起きるため、住宅の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、命を落とす危険性が高まります。

前ぶれ現象

- ・小石がパラパラ落ちてくる。
- ・がけから、水がわき出てくる。
- ・斜面のひび割れ、変形がみられる。

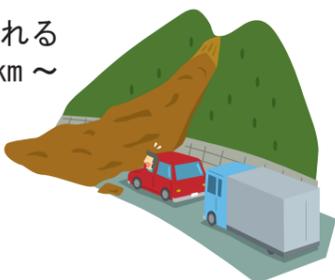


土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものを「土石流」といいます。流れの速さは規模によって異なりますが、時速 20km ~ 40km という速度で一瞬のうちに住宅や畑などを壊滅させてしまいます。

前ぶれ現象

- ・山鳴りがする。
- ・川の流れが濁り流木が混ざりはじめる。
- ・雨は降り続けているのに川の水位が下がる。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面の下の方に移動する現象のことを「地すべり」といいます。土の量が多いため、大きな被害が出ます。また、一度動き出すと、完全に停止させることは非常に困難です。雨だけの原因ではないため、発生の予測は難しいです。

前ぶれ現象

- ・がけや斜面から水が噴き出す。
- ・地面にひび割れができる。
- ・沢や井戸の水が濁る。



避難するときの注意点

- ・自分の命を守るため、自主的に判断し、最大限の行動をとります。
- ・想定を上回る事象が発生する場合があります。危険を感じたら、直ちに行動しましょう。

避難のポイント

- ・土砂災害は木造の建物を壊す力を有しているため、災害発生後の避難は困難です。早い段階で避難しましょう。
- ・高齢の方など、避難に時間を要する方が近所に住んでいる場合は、声掛けを行きましょう。

避難の仕方

がけ崩れ

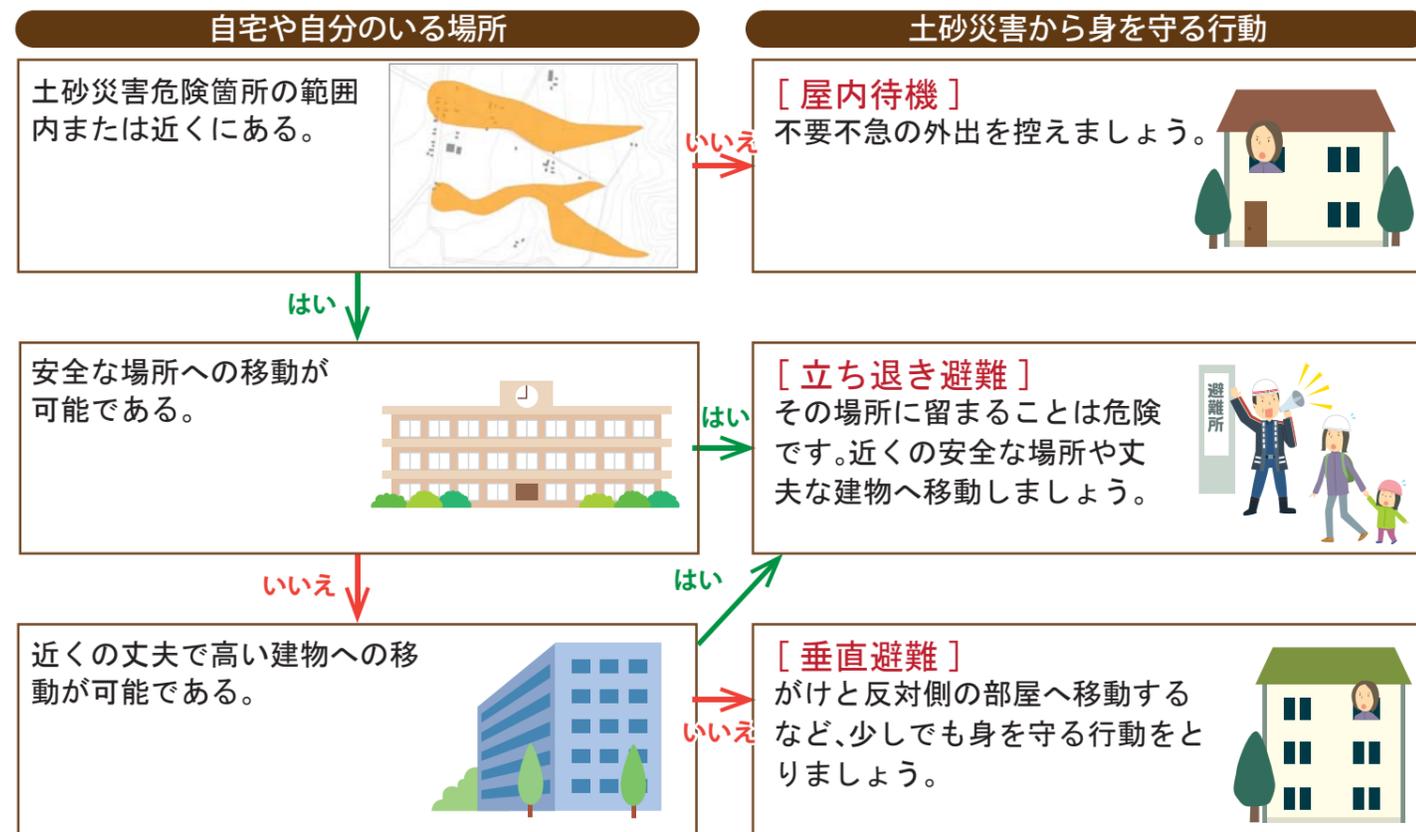
- ・がけからできるだけ遠くに避難しましょう。

土石流

- ・谷沿いの低い土地から離れましょう。
- ・流れが速いので、流れと直角方向に逃げましょう。

土砂災害から身を守る行動

自宅や自分のいる場所に応じて、土砂災害から身を守る行動をとりましょう。
※土砂災害危険箇所は P. 16 ~ 23 を参照してください。



避難するまでの流れ

- ①雨が強くなってきたら、土砂災害警戒情報などの情報を確認しましょう。
 - ・自宅周辺の状況を確認しましょう。
 - ・テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、スマートフォンなどで確認しましょう。(気象庁ホームページ、北海道防災情報ホームページなど)
- ②危険を感じたら、少しでも早く避難しましょう。
 - ・前ぶれ現象を見つけた場合
 - ・高齢の方や小さい子供がいる方
 - ・土砂災害危険箇所の範囲内または近くに住んでいる方
- ③避難勧告などの連絡があったら、直ちに避難しましょう。
- ④避難勧告などが出ていなくても、危険を感じたら直ちに身を守る行動をとります。



土砂災害に関する情報

「土砂災害警戒情報」は、土砂災害の危険が高まったときに発表される防災情報です。テレビ・ラジオのほか、気象庁や北海道のホームページ(北海道土砂災害警戒情報システム)などでも確認できます。(P. 1 参照)



基本知識

震度とは、ある場所での地震による揺れの強さを表したもので、マグニチュードは地震そのものの大きさを表したものです。マグニチュードが小さくても震源が浅い場合や近い場合は震度が大きくなります。

震度4

多くの人が驚く。置物が倒れることがある。



震度5弱

物につかまりたいと感じる。棚から食器類や書籍が落ち、固定していない家具が移動することがある。



震度5強

行動に支障を感じる。重い家具や自動販売機が倒れることがある。



震度6弱

立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。建物の外壁や窓ガラスが破損する。



震度6強・7

はわないと動くことができない。耐震性の低い木造建物は傾くものや倒れるものが増える。

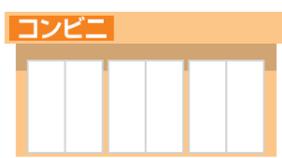


避難するときの注意点

地震はいつ発生するかわかりません。地震が発生すると、様々な状況が想定されます。自分がいる場所や状況に応じて、適切な行動をとりましょう。

スーパー・コンビニ

- ・手荷物やかごなどで頭を守り、ショーケースの転倒や商品の落下、ガラスの破片などに注意しましょう。
- ・店員の指示に従いましょう。



バスでの移動中

- ・座っているときは、頭部を保護して姿勢を低くしましょう。
- ・立っているときは、つり革や手すりにつかまりましょう。
- ・乗務員の指示に従いましょう。



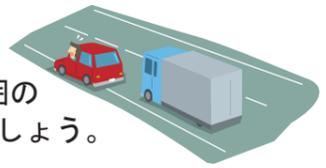
外で歩いている時

- ・カバンやバッグで頭を守りましょう。
- ・切れて垂れ下がっている電線やガス漏れしていると思われる場所、道路が液状化したり陥没しているところには近づかないようにしましょう。



車の運転中

- ・ハンドルをとられて運転が困難になります。徐々に減速し、道路の左側に寄せて駐車しましょう。
- ・地震情報や交通情報を聞いて、その情報や周囲の状況に応じて行動しましょう。



山やがけの近く

- ・山全体が大きく崩れたり、余震により土砂崩れが起きることもあるので、落石に注意し、直ちに平らで安全な場所へ避難しましょう。



地震から身を守る行動

大きな地震が発生したら、地震から身を守る行動をとりましょう。

揺れを感じたら

屋内では・・・

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、まず自分を守りましょう。
- ・揺れがおさまるまで様子を見ましょう。



屋外では・・・

- ・カバンやバッグで頭を守りましょう。
- ・ブロック塀や自動販売機から離れましょう。



揺れがおさまったら

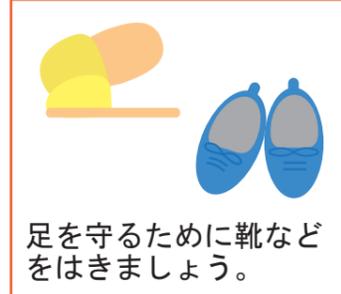
すぐ火の始末をしましょう。



玄関や窓を開けて逃げ口を確保しましょう。



家族の安全を確保しましょう。



足を守るために靴などをはきましょう。

避難するときは

津波に備え、直ちに海から離れ、急いで安全な場所に避難しましょう。

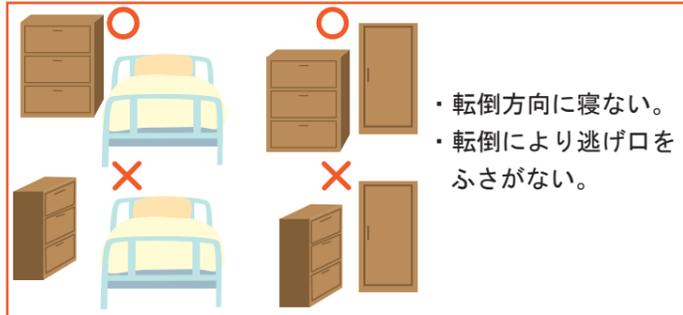


ブレーカーやガスの元栓を閉めてから避難しましょう。



家具の固定と安全確保

大きな地震がきたときに身を守るため、日頃から家具を固定しておきましょう。



- ・転倒方向に寝ない。
- ・転倒により逃げ口をふさがない。



天井に固定する

- ・L字金具等を利用して柱に固定するか、天井に補強の板をはさめてつっぱり棒で固定する。
- ・いずれの場合も家具との間に遊びができないように注意する。

ガラス飛散防止フィルムを張る

地震に関する情報

大きな地震が発生した場合、テレビやラジオ、携帯電話、スマートフォンなどで「緊急地震速報」の報知音がなります。「緊急地震速報」を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません。強い揺れに備えて身を守ってください。

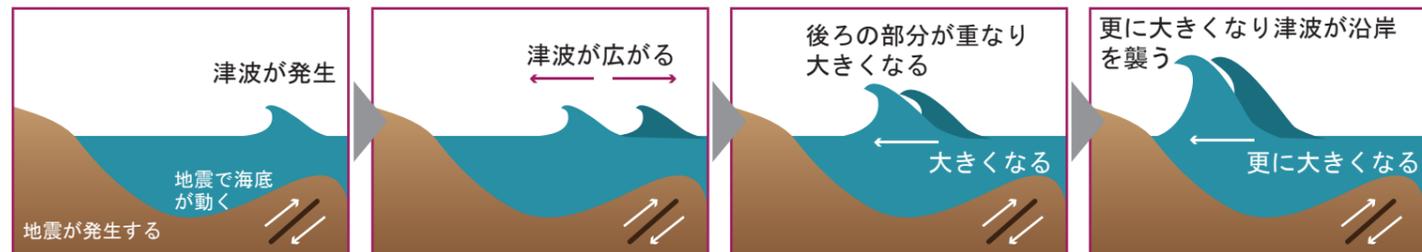
緊急地震速報!!



基本知識

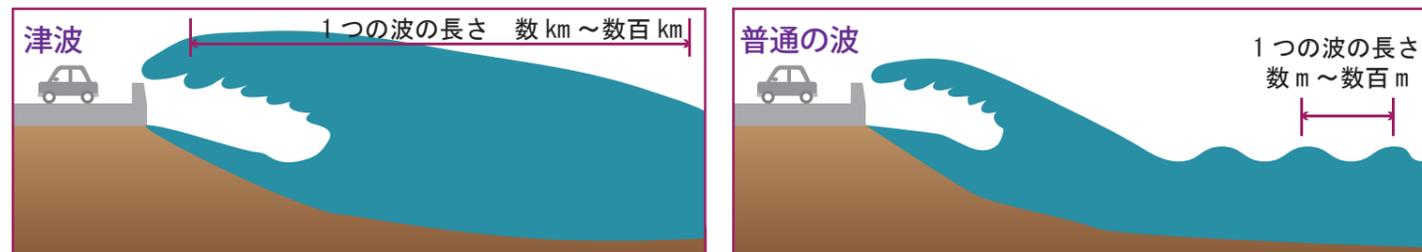
津波発生のしくみ

津波は、海底で地震が起こり、海水のかたまりが動くことで発生します。地震が大きいほど、また浅いところで発生するほど、津波は大きくなる傾向にあります。



津波と普通の波のちがい

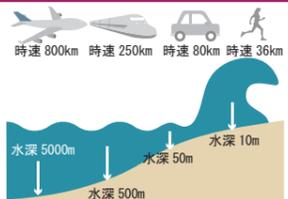
津波は普通の波と異なり、海底から海面までの海水全体が「巨大な水のかたまり」となって押し寄せます。



津波はどんな現象

津波のスピードは速い

津波の速さは沖合でジェット機並み、海岸付近でも新幹線並み、陸上でも車より速く押し寄せます。



小さな津波も危険

津波は速い水の流れです。ひざより下までしかないような水の流れでも命を落とすことがあります。



津波は繰り返し襲ってくる

津波は繰り返し襲ってきます。第1波が最大とは限りません。何時間もあとに来ることもあります。



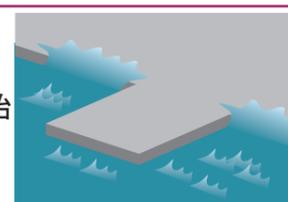
津波の高さは想定を超える

津波は長時間に及ぶ非常に長い波で、海岸の地形によっては数倍の高さに及ぶこともあります。



引き波で津波が始まるとは限らない

津波の前に海が大きく引く(引き波)ことがありますが、どんな津波でも引き波から始まるわけではありません。



津波は川をさかのぼる

津波は河口から何 km も上流まで遡上(逆流)して堤防からあふれ、大きな被害が発生することがあります。



避難するときの注意点

大津波警報や津波警報が発表されたら、海の近くにいる人は直ちに避難してください。津波注意報の場合は、海に近づかないようにしましょう。

津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどに注意しましょう。

大津波警報・津波警報・津波注意報はすぐに解除されることはありません。一度避難したら、解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。

津波から身を守る行動

大きな地震が発生したら、津波から身を守る行動をとりましょう。

強い地震(震度4程度)を感じたときや弱い地震が長い時間ゆっくりと感じたときは、直ちに海から離れ、急いで高台などの安全な場所に避難しましょう。



津波は繰り返し襲ってきます。津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けましょう。



地震を感じなくても、津波警報が発表されたら直ちに海から離れ、急いで高台などの安全な場所に避難しましょう。



地震後はデマに惑わされず、正しい情報に基づいて行動しましょう。



もし、高台が近くになかったら、コンクリート造の高い建物に避難しましょう。



避難は徒歩が原則です。車による避難は渋滞を引き起こし、危険を伴う場合があります。



※高齢の方などの避難は日頃から検討しましょう。

津波に関する情報(気象庁から発表される警報・注意報)

地震発生(津波による被害が予想される場合)

地震から約3分後

大津波警報 津波警報 津波注意報 を発表

警報・注意報の分類	津波の高さ予想の区分	予想される津波の高さ	
		発表する値	定性的表現 ^(※)
大津波警報	10m～	10m超	巨大
	5m～10m	10m	
	3m～5m	5m	
津波警報	1m～3m	3m	高い
津波注意報	20cm～1m	1m	—

(※) マグニチュード8を超える巨大地震のとき、「巨大」、「高い」ということばで発表され、非常事態であることを伝えます。

各津波予報区の情報を発表

①津波到達予想時刻 ②予想される津波の高さ

各地の情報を発表

③満潮時刻 ④津波の到達予想時刻

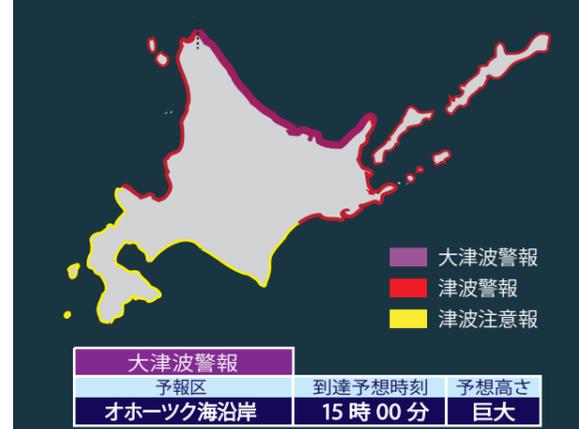
実際の観測結果を発表

⑤津波観測

佐呂間町沿岸の予報区は、「オホーツク海沿岸」です



テレビの津波警報等の画面イメージです



基本知識

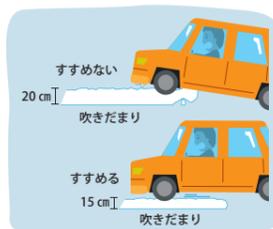
暴風雪とは、雪を伴った強い風が吹くことです。

❄️ 吹きだまり

風で運ばれた雪が、建物や車などでさえぎられた場所にたまる現象です。

被害

- ・積雪 20cm 程度でも車が発進できなくなる場合があります。
- ・住宅ではFF 暖房機などの給排気口がふさがれると、一酸化炭素中毒の恐れがあります。

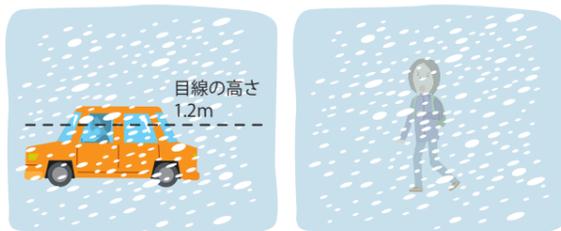


❄️ 視界不良(ホワイトアウト)

雪が強い風で吹き上げられ、視界が真っ白になる現象です。

被害

- ・視界が悪く、交通事故を起こす危険性があります。
- ・吹きだまりで見えず、立ち往生する恐れがあります。
- ・方向感覚がなくなり自分の位置がわからなくなります。
- ・体温が奪われ低体温症になる恐れがあります。
- ・車からは歩行者が見えにくいことがあります。



暴風雪が発生しやすい時

- ・発達した低気圧の通過や強い冬型の気圧配置の時に暴風雪が発生することが多くなります。
- ・また、低気圧の移動が遅い場合や地形が急に開けた場合では風の強さや風通しが急激に変化するのが特徴です。



避難する時の注意点

- ・暴風雪による被害は、天気が急に変わったとき、特に多く発生しています。
- ・テレビやラジオなどで悪天候が予想されていることを知ったときは、天気が良くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを十分確認しましょう。
- ・暴風雪が予想されているときは、無理をせず外出は控えましょう。

❄️ こんなときは要注意

気象台から「数年に一度の猛吹雪」「外出を控えてください」などの情報が発表されたら、厳重に警戒しましょう。

❄️ やむを得ず車で外出するとき

- ・車が立ち往生することを想定して、準備しましょう。
- ・十分に燃料があることを確認しましょう。

❄️ 車に積んでおくといもの

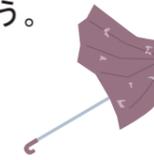


暴風雪から身を守る行動

暴風雪が予想されたら不要不急の外出は避け、暴風雪から身を守る行動をとりましょう。

❄️ 歩行中や屋外で作業中のとき

- ・コンビニなど建物に移動して天気の回復を待ちましょう。
- ・風で飛ばされている物に注意しましょう。
- ・重ね着や肌の露出を少なくし、体温が低下しないようにしましょう。



❄️ 家の中にいるとき

- ・給排気口がふさがれていないか確認しましょう。
- ・吹きだまりの状況を見て出入口を除雪しましょう。



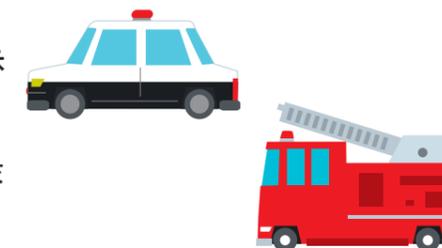
❄️ 車を運転しているとき

- ・道の駅、コンビニなどで天気の回復を待ちましょう。
- ・気象情報や道路情報を確認しましょう。



❄️ 途中で立ち往生してしまったとき

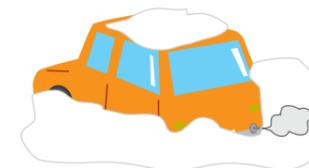
- ・追突されないように、ハザードランプを点滅して、三角停止表示板を置きましょう。
- ・JAFロードサービス等、近くの住宅等に救助を求めましょう。
- ・近くに住宅等がないときは、警察・消防に連絡して救助を求めましょう。



❄️ 車内で救助を待つとき

[原則エンジン停止]

一酸化炭素中毒を防ぐため、エンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。やむを得ずエンジンをかけるときは、排気管の出口を確実に開放しましょう。



[窓を開けていても危険]

風向きや窓の開き具合などによっては、閉めているときよりも一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあるので、注意しましょう。



❄️ 道路緊急ダイヤル

JAFロードサービス 0570-00-8139 または#8139(短縮ダイヤル)
道路緊急ダイヤル #9910(短縮ダイヤル)

暴風雪災害に関する情報

- 「**暴風雪特別警報**」数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
- 「**暴風雪警報**」雪を伴う暴風により重大な災害が予想される場合(平均風速 18m/s、視程障害を伴う)
- 「**風雪注意報**」雪を伴う強風により災害が予想される場合(平均風速 10m/s、視程障害を伴う)

※()は佐呂間町の気象情報の発表基準を示します。